



えんじゅ

春日市立春日小学校
校長室便り No.18
令和2年12月11日
文責：校長 福島

人権週間をふいかえて



12月4～10日までは「人権週間」だったことをご存知でしょうか。1948年12月10日世界中の全ての人々が自由・平等に生きていく権利を宣言した、「世界人権宣言」の採択を記念して設定されました。学校では、すべての子供の人権が保障されなくてはなりません。

本年度の本校の重点目標は「多様性の理解と自尊感情の高揚」です。「きたほめメソッドと特別支援教育の浸透」を大切にしながら学校経営を行っています。

特別支援教育の浸透とは、「全児童652人一人一人に目を向け、その子のニーズに合った支援を行い、すべての子どもの可能性を最大限引き出すこと」です。

多様な子供のニーズに応える一つの場として、本校には「つばさ学級」があります。子供にはみんな得意なものと苦手なことがあります。苦手なことが大きくなると自分に自信がもてなくなります。得意なことを伸ばし、苦手なことを軽減して自分に自信を持たせる場が「つばさ学級」です。通級指導教室は週に1回を基本としますが、つばさ学級では毎日個に応じた支援を行っています。

国語や算数の学習を実態に合わせた内容とペースで行ったり、集団での遊びを通してコミュニケーション能力や感情のコントロールを培ったり、野菜づくりや料理を通して生活に直結する技能や知識を身につけたりと、一人一人のニーズに応じて十人十通りの指導を行っています。

つばさ学級の子供たちは、所属する学年の交流学級と両方の場で学びを深めます。交流学級からつばさ学級に行くときは、教室の前で「行ってきます」帰ってくると「ただいま」と元気にあいさつをします。交流学級の子供たちは「行ってらっしゃい」「お帰り」と温かく返しています。学ぶ場は違っても同じ学級の仲間だという意識です。小学校の段階から、多様性に対する正しい理解と感覚を身につけさせたいものです。

学校には多様な学び方がありますが、目指すゴールは「可能性を最大限引き出し、自尊感情を高めること」一つです。

